

わかるぞ！できるぞ！算数

1 単元 1年 たしざん（2）

2 本時の目標

- 具体物を用いた算数的活動を通して、繰り上がりのあるたし算の仕方を考えることができる。
- 自分の考えを、操作と関連付けて筋道立てて説明できる。

3 準備物 （教師）パソコン、デジタルテレビ、実物投影機 教材（パワーポイント） （児童）さんすうブロック、おはじき操作板

4 過程

（1）既習のたし算をする。

T たし算をしましょう。

※ 答えが10までの（1けた）+（1けた）のたし算を、スライドに合わせて答えさせる。

① $5+2=7$ ⑥ $1+9=10$
② $6+4=10$ ⑦ $2+4=6$
③ $3+2=5$ ⑧ $4+5=9$
④ $8+1=9$ ⑨ $3+4=7$
⑤ $7+2=9$ ⑩ $5+3=8$

（2）問題から数量の関係をつかみ、式を立てる。

くるまが 8だい とまって います。
5だい くと、なんだいに なりますか。

T どんな式になりますか。

C $8+5$ になります。

T なぜ、たし算の式にしたのですか。

C 8だいあって、5だいきたからです。

C 増えたからたし算にします。

T 増えたときの大きさを求めるから、たし算ですね。

※ 演算決定を児童の言葉で表現させ、たし算の意味を再確認する。

くるまが 8だい とまって います。
5だい くと、なんだいに なりますか。

くるまが 8だい とまって います。
5だい くと、なんだいに なりますか。

しき $8+5$

(2) 学習のめあてをつかむ。

T 今まで習ったたし算とどこが違いますか。

C たしたら、10より大きくなります。

こたえが 10より おおきく なる たし
ざんの しかたを かんがえよう。

がくしゅうの めあて

こたえが 10より おおきく なる
たしざんの しかたを かんがえよう。

ブロックを つかって
かんがえよう。

(3) ブロックを使って、繰り上がりのある計算の仕方を考える。

T ブロックを出して考えましょう。

※ 解決の糸口がつかめない児童に対しては、数えたしの考え方で答えを求めさせるようにする。

※ 児童の反応例

(ア)

8 だいに 1 だいを 5 つたすと、ぜんぶで 13 だい

(イ)

8 だいに 2 だいを たして 10 だい 10 だいに 3 だいを たして 13 だい

(ウ)

8 だいに 2 だいを たして 10 だい 10 だいに 3 だいを たして 13 だい

※ 数えたしか、10のかたまりをつくっているか、児童の具体物を用いた算数的活動の様子を十分観察することが大切である。

(4) それぞれの考え方を発表し、話し合う。

※ 児童の考えを提示する方法として、実物投影機+電子黒板が最も有効であると考える。

※ 実物投影機+デジタルテレビの場合は、同時に複数の考え方を提示できないので、工夫が必要である。

T 友達の考えを聞いて、気の付いたことを発表しましょう。

C わたしは、(ア)と同じでした。

- C (イ) と (ウ) は、まず、8に2をたして10にしているのので、同じ考え方です。
 C ぼくは (イ) のようにしていたのですが、(ウ) のようにブロックを並べると、10が分かりやすいです。

※ 友達の考えを聞く中で、10をつくることによって、「10とあといくつ」と考えることができるよさに気付かせる。

(5) $8 + 5$ の計算の仕方をまとめる。

T $8 + 5$ の計算の仕方をまとめましょう。

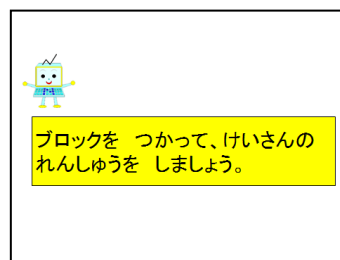
※ 児童の考えを尊重しながら、繰り上がりのある加法の計算の仕方を次のようにまとめる。

$8 + 5$ は、
 8 に 2 をたして 10
 10 と 3 で 13
 $8 + 5 = 13$

(6) 計算練習をする。

T ブロックを使って、計算練習をしましょう。

※ スライドに合わせてブロックを操作させ、繰り上がりのある加法の計算の仕方に慣れさせる。



あといくつで10になるかな

4を2と2にわける

$8 + 4 = 12$

8に2をたして10
10と2で12

あといくつで10になるかな

7を2と5にわける

$8 + 7 = 15$

8に2をたして10
10と5で15

あといくつで10になるかな

8を1と7にわける

$9 + 8 = 17$

9に1をたして10
10と7で17

あといくつで10になるかな

6を3と3にわける

$7 + 6 = 13$

7に3をたして10
10と3で13

あといくつで10になるかな

4を3と1にわける

$7 + 4 = 11$

7に3をたして10
10と1で11

あといくつで10になるかな

8を4と4にわける

$6 + 8 = 14$

6に4をたして10
10と4で14

(7) 次時の予告をする。

T $8 + 5$ のようなたし算が確実にできるようにしていきましょう。